第五章　宮島の生活

祭りと行事

●百手祭（ももてさい）

餺飯（神饌）

百手祭

毎年1月20日に大元神社で行われる御弓神事である。百手祭は一手2本の矢を百手（200本）射る御弓始の儀式が由来といわれている。年頭に弓を射て邪気を払う行事は、県内では沼隈町や豊町などに伝承されているが、宮島では祝詞奏上（のりとそうじょう）の後、神職が天に向かって矢を放つ。次に左に向かって矢を放つ。その後、裏面に「年の始めから争いごとはしない」という意味をもつ「甲（こう）・乙（おつ）・厶（なし）」を謎字にした「鬼」の文字が書かれた的を射る。終って地に向かって矢を放つ。次に右に向かって矢を放つ。

この祭には、拝殿での直会（なおらい）に「餺飯（ほうはん）」が饗（きょう）される。この「餺飯」は古来の神饌（しんせん）の形式を伝えているといわれ、煮しめ・なます・たくあん・白大豆・海苔などを食べる。ご飯の上に、たくあんの微塵切（みじんぎ）りと白大豆・青海苔を載せ、熱い汁をその上からかけて食べる。栄養的にもバランスのとれたもので、この食事は戦国時代の兵糧食ともいわれている。

神饌に火を使って調理したものが供されることは珍しく熟饌（じゅくせん）という。

●節分（せつぶん）

節分には各家の入口に邪気払いのために「たわらくい」を掛けておく。「たわらくい」とはタラの小枝にヒイラギの葉を巻き付けたもので、その刺で邪気が家に入るのを防ぐといわれている。

節分の夜には、家族一人一人の年の数だけ豆を白紙に包み、家の近くの四つ角（厳島神社裏や公民館前）に行って家族の無病息災や願い事が叶うよう祈り、豆の包みを背中越しに投げてかえる風習がある（四つ角を見て投げてはいけない）。翌日の早朝には、そうした白い包みを見ることができる。

●宮島かき祭り

宮島の特産である「かき」が一番おいしい2月に、毎年開催されている盛大な祭り。広島県で一番最初に始めたのが「宮島かき祭り」で昭和60（1985）年に第1回が開催された。

新鮮な殻付きのかきを炭火で焼いて食べる「かきの浜焼き」や、自分たちで焼きながら食べる体験コーナーなどがあり人気を集めている。

この他、かきの直売市や試食コーナー、「神楽」や「和太鼓」などステージもあり多くの観光客が訪れる。

●清盛神社祭（きよもりじんじゃさい）

昭和20（1945）年の紅葉谷川の土石流災害による厳島神社の昭和大修理工事の最中の昭和27（1952）年は、社殿造営に尽力した平清盛の没後770年にあたる。この祭りはその功績を賛え、戦後の新たな宮島の再出発を願って、昭和27（1952）年から始まったものである。清盛の命日である3月20日前後は春の観光シーズンの幕開けとなるもので、多くの催し物が行われ観光の呼び物になった。

昭和27、28年に三翁神社で祭典が行われ、翌年昭和29（1954）年には、西松原に平清盛を祀る清盛神社が創建され、この年からこの神社で3月20日に清盛神社祭が行われている。

●桃花祭（とうかさい）

桃花祭は室町時代に桃の花を厳島神社に供えたのが始まりと伝えられ、4月15日夜の桃花祭神事と舞楽に引き続いて、16日から3日間厳島神社能舞台（国指定重要文化財）で「神能」が行われる。

- 桃花祭神事…午後5時から祭典があり、引き続き高舞台にて舞楽奉奏がある。途中「桃李花」が奏楽され、宮司が本社神前に桃花を献花する。

●端午の節句（たんごのせっく）

旧暦の5月5日は端午の節句で、対岸の地御前神社では例祭が行われる。この日は宮島や地御前の各家では子どもの健やかな成長を願い、家の軒先に菖蒲とヨモギを上げる。夜になると、菖蒲を風呂に入れて菖蒲湯にするといわれている。菖蒲の上がっている家の並んだ通りを歩くと、家族の健康を祈るだけではなく、宮島を訪れる人たちの息災を願う島の人たちの心遣いを感じることができる。

●御島巡(廻)式・御鳥喰式（おしまめぐりしき・おとぐいしき）

「養父崎大明神にて御鳥喰奉る図」

粢団子を載せた粢筏に飛来した神鳥

「安芸の宮島廻れば七里　浦は七浦七恵比寿」と唄われているように、宮島は島全体が「神の島」として尊ばれている。それは人々がそれぞれの時代を通して島の自然とともに交歓してきたことを物語るものである。

「御島巡り」は、早朝、神職の乗る御師船に従って船で出発し、浦々に鎮まる厳島神社の末社を巡拝するのである。そして最も重要な儀式は、養父崎神社で行われる「御鳥喰式」である。「御島巡り」は厳島神社の姫神が鎮座の場所を探し、浦々を

巡ったことにちなむ行事で、そのとき先導の役を果たしたのが神烏であったという。その神烏は弥山に住んでおり、養父崎の沖で海上に幣串と粢団子（米の粉を海水で練った団子）を供え、雅楽を奏すると、雌雄2羽の神烏が現れ、団子をくわえて養父崎神社の杜に運ばれる。これが「御鳥喰式」である。この儀式に参加した人には幸運が授かるといわれている。

「御鳥喰式」が無事終わると、さらに巡拝は続く。須屋浦へ上陸し、須屋浦神社では参拝後直会の饗膳をとる。その後網之浦で上陸し、最後に大元神社に参拝後、厳島神社本社に戻り、報賽祈祷が行われ、すべてが終了となる。大元神社の拝殿には、この御島巡りの記念の扁額が奉納され、江戸時代末期からの額が掲げられている。

こうした浦々にまつわる話や奇岩の由緒を聞きながら島を巡る行事は、参拝の人々が常に島全体を注視することとなり、島の景観を伝える大きな役割を果たしていたともいえるのである。

以下が浦々に祀られている神社である。包ヶ浦・養父崎神社を除いた神社が「七浦七恵比寿」といわれている。

浦々の神社に祀られている御祭神

①杉之浦神社
　ご祭神「底津少童命」
・包ヶ浦神社
　ご祭神「塩土老翁」
②鷹巣浦神社
　ご祭神「底筒男命」
③腰少浦神社
　ご祭神「中津少童命」
④青海苔浦神社
　ご祭神「中筒男命」
・養父崎神社
　ご祭神「神烏」
⑤山白浜神社

　ご祭神「表津少童命」
⑥須屋浦神社
　ご祭神「表筒男命」
⑦御床神社
　ご祭神「市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命」

●管絃祭（かんげんさい）（市立祭・御洲堀・御船組・御試乗式）

御座船（管絃船）出御

管絃祭クライマックス

旧暦6月17日の夕刻から行われる宮島を代表する海の祭である。この管絃祭は平清盛が当時都で盛んに行われていた管絃を奏する遊楽を宮島に移したのが始まりといわれている。厳島神社では神様を慰めるためとして行われ、みやびな海上渡御の祭である。和船3隻を繋ぎ合わせて屋形をしつらえた御座船（管絃船）の上では管絃が奏される。御座船は阿賀（呉市）と江波（広島市）の人たちが漕ぐ、3隻の漕ぎ船に引かれて地御前神社へ向かうのである。漕ぎ船は阿賀と江波の船に限られている。これは元禄14（1701）年に御座船が嵐に遭い、遭難しかけた時に阿賀村と江波村の船がいち早く救援に向かったことから、以来漕ぎ船は「阿賀」と「江波」の両村が奉仕するようになったのである。地御前神社で祭礼が終わると宮島に引き返し、長浜神社・大元神社でそれぞれ祭典があり、各神社では奏楽がある。御座船は満潮の大鳥居をくぐって客神社で祭典があり、終わ

ると客神社と廻廊に囲まれた「枡形」で御座船が管絃を奏しながらダイナミックに3回廻るのである。これが管絃祭のクライマックスで、参拝者の大きな拍手に包まれる。こうして平安時代の優雅さと海の男の勇壮さを合わせ持った華麗な海の祭典は幕をおろすのである。

この管絃祭には以下のような前儀がある。

まず旧暦6月5日に「市立祭」がある。江戸時代には春・夏・秋と市が立ったが、夏が最も盛大で、市の間は境内に臨時の露店が出て芝居なども行われていた。

旧暦6月11日が「御洲堀」である。これは御座船が通る大鳥居の内側の水深を深くするために水底の土砂などを取り除くもので、大竹市、廿日市市、広島市の人々によって奉仕される。

旧暦6月15日に「御船組」を行う。客神社前で倉橋（呉市倉橋）から曳かれてきた和船三隻をつなぎ、根太を渡し、屋形をかけ御座船が出来上がる。

旧暦6月16日、いよいよ「御試乗式」である。組み立てた御座船がよく出来ているか、大鳥居をうまく漕ぎ抜けることができるかということを試みるのである。管絃祭当日はこうして迎えることができるのである。

●居管絃（いかんげん）

旧暦には閏月があり、6月が2度あることがある。閏6月17日に行われるのが「居管絃」である。船管絃とは異なって「居ながらの管絃」の意味である。出御祭などはないが、高舞台に御座船と同様に船形を付け屋形を設ける。屋形には12ケ月を示す造花が飾られる。管絃は船管絃と同じ曲目が奏される。この日、廻廊には釣灯篭のほかに提灯を灯し、平舞台にも提灯台が設けられる。灯りのともった夜の風景は幻想的で大変美しい眺めである。参拝者は近くまで寄って管絃を聞ことができる。

●玉取祭（たまとりさい）

旧暦7月18日に近い日曜日又は土曜日、厳島神社本社と大鳥居の間の海中で、若者たちが直径5寸（約15㎝）の楠でできた宝珠を奪いあう勇壮な祭りである。

厳島神社の火焼前の前方の海上に4本の柱を立てて櫓を組み、天井から宝珠が下げられる。満潮時を期して浜辺から裸の若者が海に入ると同時に、社殿の先端火焼前では綱を引いて宝珠を上下に揺り動かす。若者たちはやぐらを組み空中の宝珠に飛びかかり、海に落とすと、海中での争奪戦を繰り広げる。宝珠を奪い取った者は社殿・西松原・御笠浜に設けられた3箇所の注進所のどこかに宝珠を持ち込むのである。持ち込んだ若者には今年の幸運を授かるといい、宝珠とともに賞金、賞品が与えられる。

江戸時代には「延年祭」といわれ、社殿に安置された恵比寿・大黒の福神像を奪いあう延年行事であったが、神仏分離後廃止され、明治初期に今の姿になり復活したものである。

宝珠

福神像

●盆

８月15日を中心に先祖供養の盆行事が行われる。島の人たちの先祖の墓は対岸、JR宮島口駅の背後に集中しており、13日は「仏迎え」と呼ばれ、この日までに各家の墓掃除をすませる。仏の墓前にはシキミを供えるが、広島周辺に見られるような紙で造った盆灯篭を供えることはない。島内の寺院では、本堂に各檀家ごとに位牌やおりょうぐ膳、供え物を供えて精霊棚を設ける。

14･15日には、旦那寺の自分の家の精霊棚にお参りをすませ、親戚などの精霊棚にも線香をあげて先祖供養をする。

かつては家ごとに精霊棚を祀り、16日未明に墓に参る家も多かった。

●宮島水中花火大会（みやじますいちゅうはなびたいかい）

宮島水中花火大会

毎年8月に厳島神社大鳥居の沖合で行われる、宮島の夏を代表する水中花火大会。花火船より海中に投げ込まれた水中花火は大音響と共に炸裂し、厳島神社の社殿や大鳥居を幻想的なシルエットで浮かび上がらせる。日本花火百選のなかでも最高のロケーションを誇り、毎年多くの観光客や写真愛好家が訪れている。

●地蔵盆・地蔵さん祭り（じぞうぼん・じぞうさんまつり）

地蔵盆は盂蘭盆で供養できなかった先祖の霊を供養する行事で、8月24日を中心に島内各寺や各所に祀られている地蔵堂で行われる。魚の棚町や港町・桜町・大西町では、それぞれの町で趣向を凝らした飾りを施し、百万遍が行われるなど町を挙げての祭りとなっている。

大西町　7月24日

杉之浦　8月15日

西連町（徳寿寺）・港町・魚の棚町（宝寿院）・桜町　　8月24日

●たのもさん

たのも船

たのもさんは、旧暦の8月1日（八朔）に行われる紅葉谷にある四宮神社の例祭である。各家々で作った「たのも船」と呼ばれる船を夕刻から神社の前に持ち寄り、祭事が終わると厳島神社の火焼前や御笠浜から海に流すのである。その時船にはろうそくの明かりを灯し、中に家族の人数分の新粉細工の人形や供えものを乗せる。すると引き潮にのって大鳥居の側を通り、大野瀬戸へと出ていくのである。

たのもさんは「田面船」「田の実船」とも書かれ、農作物に感謝し豊作を願う祭りとされている。宮島では田畑を耕してはいけないとされてきた。しかし、田畑はなくとも人びとの農作物への感謝の念は厚く、田の神に対する崇敬は農家と同じであった。農家で古くから行われていた新穀の贈答行事の「八朔」が宮島ではこうした展開をし、対岸の農家はこの船を海岸で拾って畦に供えておくと豊作になると信じられていた。海を挟んで宮島と対岸の大野・廿日市の農家の人々との海の上の交歓の祭りなのである。

●献茶祭（けんちゃさい）

毎年秋に厳島神社の能舞台で表千家・裏千家の茶道の家元が隔年交互にお茶をたて、ご祭神に奉納する儀式である。当日は宗匠のお点前を見ようと、全国各地から多くのお弟子さんが訪れる。神社周辺の町内各所にもお茶席が設けられ、神とともにお茶を満喫することができる。一日中多くの和服姿の女性が社参し、厳粛な中にも華やいだ雰囲気が漂う。

第2次大戦後、近隣の茶人が中心になって戦後の復興を祈念して始まり、現在は宮島には欠かせない秋の行事となり、お茶を広く後世に伝える祭になっている。

●菊花祭・氏神祭

10月15日に行われ、舞楽奉奏がある。「賀殿」が奏楽され、宮司が本社神前に菊の花を献花する。

●鎮火祭（ちんかさい）

12月31日午後6時から行われる火難除けの祭事である。厳島神社本社祓殿に祭壇を設け、祭典が終わると「浄火」（火打石でおこした清浄な火）を松明に移して御笠浜の斎場まで運び、人々がそれぞれ持ち寄った松明に一斉に点火して、参道を「ピピ（笛）ヨイヨイ」のかけ声をかけながら、神社入口と石鳥居の間を何度も往復し駆け廻るのである。大小さまざまな松明が集まり、御笠浜はまるで火の川のようになる。そしてこの火を持ち帰り火除けの願いをこめて、神棚の灯明や正月の雑煮の火種にするのである。

この祭礼は、江戸時代は「晦日山伏」と呼ばれ、供僧の行事であった。当時、僧侶が松明を持って厳島神社に集まり読経を上げたが、その火の粉が屋根に落ちても「晦日山伏」のものは決して火災を起こさなかったという。そこでこの松明の燃え残りを「火災除けの護符」としたのが始まりといわれている。これが明治維新後は、厳島神社が「鎮火祭」として形を変えて引き継ぎ、現在のような神事となった。

鎮火祭

菓子と料理

●太閤の力餅（たいこうのちからもち）

「太閤の力餅」と呼ばれる黄粉餅である。この餅は千畳閣の建築工事の時に食されていたものである。当時、千畳閣の建築工事は大変な労力を要する大工事であった。その為、工事の指揮をとっていた恵瓊はこれに従事する人たちに赤いたすきをかけさせて励まし、間食として黄粉餅を与えた。美味しくもあり、たいへん腹もちもよいので、人びとは「太閤の力餅」といって喜んで食べたのが始まりといわれている。

●もみじ饅頭

もみじ饅頭は宮島を代表する菓子であるばかりでなく、広島を代表するみやげ物として知られている。宮島には多くの店が軒を連ねており、焼きたてを食べることができる。もみじ饅頭を製造販売している店のもみじ饅頭の由来書には、初代総理大臣を務めた伊藤博文が紅葉を楽しみに紅葉谷にやって来た時、茶店でうら若い娘のお茶を出す手を見て「紅葉のような可愛い手。焼いて食べたら美味しかろう」と言ったことからヒントを得て、もみじの形をした饅頭を作るようになったとある。伊藤博文がたびたび宮島を訪れていたことから、こうした話が生まれたのであろう。

さて、もみじ饅頭は明治中期ごろ菓子の製造販売を行い、岩惣旅館にも茶菓子

当時の焼き型で焼いたもみじまんじゅう

宮島銘菓もみじまんじゅう

を納めていた紅葉谷の高津常助（たかつつねすけ）によって考案された菓子である。宮島らしい何かいいお菓子はないかと考え、紅葉に鹿をあしらった形を考案し、「もみじ饅頭」を作ったのが始まりである。明治43（1910）年には「紅葉形焼饅頭」として商標登録されている。明治から大正期まで饅頭屋は高津堂だけであったが、戦時体制の下、廃業に追い込まれていった。

戦後、常助の弟子らが中心となり、手焼きが復活。昭和40（1965）年には機械製造も始まった。昭和55（1980）年には、郷土自慢のネタとしてもみじ饅頭を取り入れたＢ＆Ｂの漫才がテレビでしばしば放映されたことから、一躍全国に知られるようになっていった。現在では小豆餡だけでなく、チーズ・チョコレート・クリームなどが創案され、販売されている。

焼型

もみじ型
高津常助さんが考案して作った
当時の焼き型。

商標登録
明治 43 年 7 月 18 日登録の「紅葉形焼饅頭」の
商標登録証　左下の写真が高津常助さん

●雪花づけ（せっかづけ）

元は正月などに親しまれていた郷土食である。おから（卯の花（うのはな））に塩を少々入れ、油でパラパラになるまで炒っておろし、酢に味をつけたものを用意する。具には焼きあなご、えびなど味付けしたものを適当な大きさに切って酢につけて並

べて重ね、針ごぼう、針しょうがなどを置いた上に、麻の実をちらす。その上に雪花（せっか）（おから）をふりかけたなつかしい家庭料理である。

●穴子

あなごめし

アナゴ（穴子）は、ウナギ目・アナゴ科に分類される魚の総称。ウナギによく似た細長い海水魚である。日本で「アナゴ」といえば、数が多く味もよいマアナゴを指すことが多い。体型はウナギに似た細長い円筒形で、鱗がなくぬるぬるしており、海底の砂泥中や岩石のすき間に住んでいる。アナゴはさっぱりとした味わいで瀬戸内海産は特に美味とされる。大野瀬戸ではよく捕れ、宮島の「あなごめし」は牡蠣とならんで大変親しまれている宮島の味覚の代表である。

●牡蠣

牡蠣

牡蠣（かき）は広島湾北部を中心に養殖、生産されている。広島湾では古くから天然の牡蠣が採れ、縄文時代や弥生時代の貝塚（かいづか）から牡蠣の殻がでてきていることから、人びとが当時から食していたことがわかる。牡蠣の養殖は江戸時代に始まったといわれている。牡蠣は亜鉛、カルシウムなど多くのミネラルを含み、栄養豊富なことから「海のミルク」と呼ばれている。身はぷっくりとしており、旨味たっぷりの牡蠣はフライ、鍋物などにぴったりである。

現在、広島県全体の生産量は、日本全体の半分近くを占めている。

広島県で牡蠣の養殖がさかんになったのは、広島湾は波が穏やかで太田川から

運ばれる栄養分によってエサとなるプランクトンが育ち、牡蠣の養殖に適した豊かな環境に恵まれていたからなのである。

（平成19年度の広島県全体のかき類収穫量（殻付き）は日本全体の51.6％を占め、次いで宮城県・岡山県・岩手県が主要な生産地となっている。また、牡蠣は世界各国で養殖されているが、日本は中国、大韓民国に次ぐ世界第３位の生産量である。）

コラム

丸い郵便ポスト

現在の郵便ポストは箱形（角形）のものが主流ですが、1970年代までは円筒形（通称：丸ポスト）のものが主に使われていました。その後、多くは箱型のものに交換されましたが、宮島では丸形の郵便ポストが11ヶ所も残っています。宮島で懐かしい丸ポストを訪ねてみるものおすすめです。

Q．次のＡ・Ｂの丸ポストは宮島のどこに立っているでしょうか？

A

B

答え：Ａ．大聖院前　Ｂ．宝物館前

ことばと世間話

宮島ことば（広島弁）

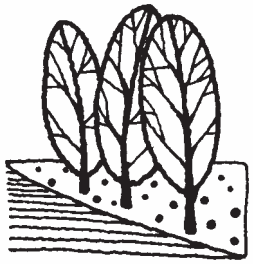
広島弁も地域によって多少の違いがある。以下のものが宮島特有のことばとは言えないが、ここでは一般的に馴染みのある広島弁と宮島なまりを紹介していくこととする。

あ

- **足がわらう**　登山などをしたときに足が震える
  ＊弥山に登ると足がわらう（弥山に登ると足が震える）
- **あんにゃあ**　あの人・あいつ
  ＊あんにゃーなかなか見どころがあるのー（あいつはなかなか見どころがあるな）
- **あやかし**　山の中で道に迷ったりすること
- **いがむ**　曲がる
  ＊ネクタイがいがんどるよ（ネクタイが曲がっているよ）
- **いかれんけぇ**　行かれないから
  ＊今日は遊びにいかれんけぇ。（今日は遊びに行けないから）
- **いたしい**　難しい
  ＊今日のテストはいたしかったのー（今日のテストは難しかったね）
- **いぬる**　帰る　去る
  ＊わしゃー、さきーいぬるど（私は先に帰るよ）
- **うち**　わたし
  ＊うちにやらしてや（私にやらせてよ）
- **ええがにせえ**　よくしなさい
- **えっと**　たくさん
  ＊人がえっとおった（人がたくさんいた）

か

・**かぐる**　引っかく
　＊隣の犬がかぐったー（隣の犬が引っかいたー）
・**かける**　走る
　＊かけって行きゃー間に合うけー急ぎんさい
　（走っていけば間に合うから急ぎなさい）
・**かばち**　文句・へりくつ
　＊かばちゅーたれるな（文句を言うな）
・**かまう**　相手にする・からかう
　＊こまー子ーかまうな（小さい子をからかうな）
・**がんぎ（雁木）**　石段
・**きんさい**　来なさい
　＊ちょっとこっちへきんさい（ちょっとこっちへ来なさい）
・**くじゅーくる**　文句を言う・小言を言う
・**けー・けん**　～だから
　＊雨が降るけー、かさ持っていきんさい（雨が降るから、かさを持って行きなさい）
・**こさげる**　鍋の底についたものをきれいにとること
・**こすい**　ずるい
　＊こすいことすなや（ずるいことするなよ）
・**こまい・こまー**　小さい　細かい
　＊この魚はこまいなー（この魚は小さいな）



さ

・**さえん**　よくない　調子がわるい
　＊そりゃーさえんことじゃねー（それはよくないことだね）
・**さでくりころげる**　ひっくりかえる
・**しかど（鹿戸）**　家の入口に鹿が入れないようにした戸
・**しごする**　処理する・料理する

　＊魚をしごーする（魚を料理する）
・**しんさい**　しなさい
　＊服装はきちんとしんさい（服装はきちんとしなさい）
・**すいばり**　とげ
　＊すいばりがささったー（とげがささったー）
・**すなやあ**　してはいけないよ・するなよ
　＊そがーなことーすなやあ（そんなことをするなよ）
・**せいがない**　張り合いがない
　＊あいつがおらんとせいがないのぉ（あいつがいないと張り合いがないなぁ）
・**そりゃーそーと**　そういえば
　＊そりゃーそーと、こないだの話はどーなった？
（そういえば、この前の話はどうなった？）

た

・**たいぎい**　体がだるい　疲れた
　＊かぜひーてたいぎーのー（風邪をひいてだるいなあ）
・**たう**　（手が）届く
　＊もう少しでたうのになあ（もう少しで（手が）届くのになあ）
・**たまにゃー**　たまには
　＊たまにゃー遊びに来んさい（たまには遊びに来なさい）
・**たびゃあすまいじゃあ**　食べはしないだろう
・**ちーと**　少し
　＊これじゃー、ちーと足りんわい（これでは少し足りないよ）
・**ちびる**　すり減る
　＊靴のかかとがちびた（靴のかかとがすり減った）
・**ちょっくら**　少し
　＊ちょっくら出かけてくるけん（少し出かけてくるから）
・**つっぺ**　貸し借りなし・あいこ
　＊これでつっぺにしてくれーやー（これで貸し借りなしにしてくれよ）

・**てごうする**　手伝いをする
　＊遊んどらんとてごーせーや（遊んでいないで手伝えよ）
・**といー**　遠い
　＊といーのー。まだ着かんのか（遠いなあ。まだ着かないのか）

な

・**なおす**　片付ける
　＊おもちゃをなおしとけーやー（おもちゃを片付けておきなさい）
・**なんぼう**　いくら
　＊これなんぼうですか（これはいくらですか）
・**にがる**　（腹が）体の中が痛む
　＊腹がにがって寝らりゃーせんかった（腹が痛くて寝られやしなかった）
・**ぬくい**　あたたかい
　＊きょーはぬくいのー（今日はあたたかいなぁ）
・**ねき**　そば・かたわら近く
・**のける**　そこにあるものを他に移す・とっておく
　＊切符はなくさんよーに、のけときんさいよ
　（切符はなくさないように、とっておきなさいよ）

は

・**はあ**　もう
　＊はあ起きたんか（もう起きたのか）
・**はぐいい**　はがゆい・残念
・**はぶてる**　ふくれっ面をする
　＊あやまるけー、そがーにはぶてんなやー
　（謝るから、そんなにふくれないでよ）
・**ひやい**　冷たい
　＊ちょっとひやいのー（ちょっと冷たいなー）

・**ぶち**　とても　すごく
　＊ぶちいたい（とても痛い）
・**ふがええ**　運・めぐりあわせが良い
・**へぎ**　薄い木で作った折箱（弁当箱）
・**へしゃげる**　押しつぶされたさま・だめになる
　＊ねじがへしゃげた（ねじがつぶれてだめになった）
・**ほい～**　それ～
　＊ほいじゃがのー（それだけれどもね）＊ほいじゃけん（それだから）

ま

・**まめ**　元気・達者
　＊今年もまめに過ごせますように（今年も元気に過ごせますように）
・**みてる**　無くなる
　＊桶の水がみてた（桶の水がなくなった）
・**みやすい**　簡単だ・易しい
　＊あの試験はみやすかった（あの試験は簡単だった）
・**みてみいや**　見てごらん
　＊そっちをよーみてみいや（そっちをよく見てごらんよ）
・**むつこい**　味が濃い（しつこい）
・**めぐ**　壊す
　＊昨日こうたのに、はぁめーだんか（昨日買ったのに、もう壊したのか）
・**もちったあ**　も少しは

や

・**やねこい**　苦しい・きつい
　＊走っていくのはやねこいよ（走っていくのはきついよ）
・**ゆー**　言う
　＊ゆーこたーなー（言うことはない）

・**ゆわえる**　結ぶ
　＊このロープをゆわえてくれーや（このロープを結んでくださいよ）
・**よーけ**　たくさん
　＊よーけもろうた（たくさん頂いた）
・**よばれる**　食事をいただく
　＊もみじ饅頭をよばれよーや（もみじ饅頭を頂きましょうよ）

わ

・**わやにする**　無茶苦茶にする
　＊わやすなーや（無茶苦茶するなよ）
・**わるさ**　いたずら
　＊こげなわるさするな（こんないたずらをするな）
・**わかた**　自分の家
　＊わかたへ泊まれーや（自分の家に泊まりなさい）

出典『ひろしまのおもしろ方言集』松林社　2000
　『広報みやじま』1992～1993

宮島の不思議な話

宮島に広く伝えられているのが「あやかし」（怪奇）の話である。「あやかし」と言えば、この島では知らない人はいない。「アヤカシに遭うけぇ、山の奥に入るな」と子どものころにきつく戒められたと古老たちが口をそろえるほどである。

そして宮島の人びとのあいだで、アヤカシに次いでよく話題にのぼるのが天狗である。弥山には天狗さんが棲（す）んでいる、と島の人びとは信じてきた。その天狗さんは無類の豆腐好きで、京都の南禅寺までひと飛びに天空を馳せる神通力をそなえているという。天狗さんは、宮島のお話をにぎわす人気者のようである。
ここでは古老の語り口どおりに紹介していくこととする。

〔『広島民俗』（広島民俗学会）第62・63号から抜粋・転載。〕

●あやかし①

昔ゃあなんですねえ、夕方んなると、山へ親が入らさなんだです。宮島の山は、あの今で言えば陶晴賢とかなんとかいうそのナニ（厳島合戦）があったでしょう。そういうナンで、亡霊がおる。ほいで、あやかされる。亡霊にあやかされて、どこへ行ったやらわからんようになる、言うて。

あやかすいうなぁ、まあ化かすいうわけですよねぇ。「アヤカシがおる。アヤカシがおる。」いうて言いよったです。山にね。そいじゃけぇ、「4時（午後）過ぎたら、山へ上がっちゃあいけん」いうて親からくじぃくられよったです。（叱言を言われていた）

あれ（友達）が17か18（歳）ころにあやかされてねぇ、とにかく弥山へ引っ張られたんですのう。

それからみな出てねえ、
「オ～イ、オ～イ・・・・」
いうて捜し歩いたんです。ほいでも、その晩にゃあわからなんだんです。

それから、明けての朝、弥山の本堂から電話がかかってねぇ、
「こうこうこういう人が来たけえ」いうて。

「はぁ、ほいじゃ、ゆんべあやかされたんがおらぁ。弥山の本堂へ行ったんじゃあ。」いうてねぇ。

ほいで、その人に問うてみると、なんです、どういうこたぁない、とにかく、知った人が・・・妙な人が、

「来い、来い、来い、来い」

言うけぇついて行った、言うんです。ほいで明けての日に、

―おかしい、自分はどこにおるんか？

思うて気がついたらねぇ、どうも弥山らしいけぇ思うて、まぁ頂上へ上がってみよう思うて頂上へ上がっとるんですよ。

ほいじゃけぇ、結局あの、駒ケ林(こまがばやし)ぅ通って・・・ほいじゃけぇ、本道(ほんみち)ぅ通って引っ張ったんじゃあないんですよ、駒ケ林ぅ通ったんですよ。あの方にまあ霊が多いわけですけぇねえ。（厳島）合戦で、駒ケ林の崖から皆両方から攻められて落ちて死んだ所ですけぇねえ。　（話者　飯富秀雄・明治34年生）

●あやかし②

わしの父親があやかされたのが、大師川（多々良川）いう川があるんです。小(こ)ぅまい川がねえ、そこなんですよ。まあ、あやかされたいうのが、道ぅ塞がれるんですのぅ、霊に。霊に道ぅ塞がれるもんじゃけぇ、どうしても自分が若いころから知っとる道をよう通らんのですよ。

―こりゃぁ、アヤカシにやられたあ。

思うて、逆ろうたら駄目じゃ思うてね、ほいからまぁ、一服吸うてから、ほいからにしよう思うてね、そこで一服吸うて、しばらく休んだんじゃけぇ、こんだぁ渡ろう思うて、飛び石ぅ渡ったら、ジャングルでやっぱり渡れん。ほいで、仕方がなしにねぇ、それを渡って大元へ下りりゃあ早う戻れるんじゃが、渡らんと、田多利(たたり)ぃ回って来たと。それを回りさえすりゃあ、霊に逆らわんわけですよねぇ。

霊に逆らうと、やられるんです。やられたら、じいさん（父）の話じゃあ、ああ言いよったですのぅ、わかた（わが家）へ戻ったら、侍の大将になっとるちゅうて。ほいで、

「われは陶晴賢の家来にて、何のなにがしなり、無礼であろう。下がり居(お)ろう」

ちゅうてやるんじゃそうですけぇ。自分方(かた)へ戻ってね、家内やら兄弟やなんか居(お)るとね、自分が大将んなってね、

「下がり居ろう」

ちゅうてやるんじゃそうですよ。それで、

「あなたのような高貴の人が、このあばら家に居られちゃあ、どうも苦しゅうもあろうけぇ、出て行ってください」

いうて、断りゅう言うてね、頼むんじゃそうです。そうすると、

「しからば、出てつかわそう」

言うてね、出るんじゃそうですよ。それがねぇ、すーっとわかたぁ（わが家を）出てねぇ、大元へ行ったら、大元で倒れるそうですよ。そうすると、必ずアヤカシが逃げとるいうて。

そりゃあ、だいたいがああいう戦場の跡ですけぇねぇ。それが一族郎党皆やられたんでしょう。それだけの怨みが籠もっとるわけですよ。それで、あの大元川がちょうど一週間血の川じゃったそうですけぇねぇ。その当時ですよのぅ、陶晴賢がやられた当時です。

こっちから見えるでしょう。弥山の頂上の右手に岩がターーと立っとる所が。あれが駒ケ林です。　（話者　飯富秀雄・明治34年生）

●南禅寺へ豆腐を買いに行った話

昔は宮島ではね、両手で提げるようになった豆腐籠というものがあったものです。資料館（宮島町歴史民俗資料館）にも置いてありますが、普通は豆腐が二丁ぐらい入ればよい方の竹籠です、蓋が付いた。ところが、「天狗さんの豆腐籠」というのはそれを大きくした物で、差しわたしが1メートルもあるような、こんなに大きな籠だったそうです。

で、三鬼(さんき)さん（天狗）は氷砂糖か金平糖か豆腐が好きなんですね。それで、ある日のこと、三鬼さんの堂守りをしていらっしゃった人が、

「実はきょうは豆腐屋が休みでございまして、お豆腐を差し上げられないんでございますが」

と申し上げたところが、

「ああ、心配するな。わしの背中に乗れ」

と天狗さんがいわれて、で、雲を飛び山を越し、着いた所が京都の南禅寺の前だったというんです。で、そこに着いて、

「しばらく待っておれ。その辺を見物して来てもよいが、夕方までには帰って来いよ。それまでは遊んで来い」

といわれまして、京の町に出られたんです。

ところが、京都から呉服を商いに来る人が顔なじみの方で、パッタリ京都の町で出会ったわけです。

「オッリャーッ！　こりゃあ三鬼さんの堂守さん」

「ヤヤッ！　こりゃあ呉服屋さん」

「どうされましたか」

「じつは三鬼さんに差し上げる豆腐が無くなって、きょうは豆腐を買いに南禅寺まで来たんです。帰りには豆腐を買うて帰らにゃーいけん。天狗さんが『背中に乗れぇ』いわれたんで、ここまで送ってもろうて、また宮島まで送ってもらうんじゃが・・・」

「そんな馬鹿なことがあるもんかい」

「馬鹿なことがあるかないか、それじゃあ、まぁ今晩帰るから、あんたこれから宮島の方へ行くんなら、どっちが先に着くか、ひとつ宮島で会いましょう」

というわけで、日暮れんなり、南禅寺にもどりましたら、

「さぁ帰るぞ。豆腐籠をしっかり持っとれよ」

というようなことで、さあ天狗さんの背中に乗ったところが、もうその日の夜中前には宮島へもどっていた。

それから2、3日後に、都からテクテク歩いて来た呉服屋さんが堂守さんを訪ねて来て、「これは参った」といったという話がございます。

（話者　三宅定和・大正8年生）

●白い振袖を召した宮島の神さん

だいたい昔は、宮島の人は朝早く、よう（よく）お参りしてましたからねえ、お宮には。暗いうちから。お宮がだいたい年中朝5時になったら全部燈明を上げますからねえ。それから夜も角々（かど）に燈明。だからそういうぐあいで、朝早くだいたい5時ごろにはお参りするんじゃないですか、年寄りは。

だからねえ、母親に聞いたら、宮島さんは三亀甲（みつぎっこう）の白の振袖の着物を着てるんだが、朝行ったら、それが今の舞楽をやる舞台の下の方の屋根の無い所に立っておられると・・・大きなきれいな振袖を着て・・・とこう言うんですよねえ。だから、宮島さんはまちがいなく振袖の着物を着た女の神さんだと、こう言うんですよ。

（話者　木谷昌光・大正3年生）

コラム　宮島の不思議

江戸時代から島では不思議なことが多いといわれ、次のような伝承があります。

●神烏

“お鳥喰い式”の烏（からす）は親子で、親が子に“あの笙が聞こえたら、おまえたちは海へ下りて団子を取って帰りなさい。そしてお宮にまず納めて、あとは自分の巣に持って帰りなさい”と教える。そして子が大きくなると、大野町の大頭神社で子別れをして、親は熊野へ帰っていくという。

●龍燈

弥山の山頂から夜の海上に不思議な光が点在し、ゆらめいて見えるという。

●神馬

厳島神社の入口に白馬がいる。茶色の毛並みの馬であっても、宮島さんにお仕えすると白い神馬になったという。

●彌山の松明

12月31日の真夜中に弥山の八合目くらいにパッパッパッと灯りがともる。

●彌山の拍子木

時折深夜に弥山からカーン、カーンと拍子木の音が聞こえてくるという。

●みさき

日がくれて山に入ると”厳島合戦”で討死した陶晴賢一族郎党の霊に引っ張られて金縛りに遭うという。

●雪の跡

雪が降るとお宮の屋根に大男の歩いた足跡が屋根についているという。これを“天狗の雪の足跡”ともいう。

●蓬莱

春先になると聖崎に立つと蜃気楼が見えるという。

伝　説

●神烏伝説（おがらすでんせつ）

昔、安芸国の佐伯鞍職が部下をつれて釣りをしていたところ、西から紅の帆を掛けた立派な舟が現れた。部下が舟の所へ行くと、中に乗っていた美しい姫君に、「あなたは誰でしょうか」と問われた。部下が「私は所の翁という者です」と答えると、姫君は次に鞍職の所へやって来て、同じように問うた。鞍職が「私は佐伯鞍職といいまして、天地開闢よりここに住み、この島を治めている者です」と答えると、その姫君は「私は昔からこの島に鎮座する神なのですが、この島の中でどこか良い場所に遷りたいと思っています。朝廷に上奏し、御殿を造ってください」と告げた。鞍職は恐縮し、これを承知するが「朝廷に申し上げるにあたって何か証拠を賜りたい」と願い出た。すると姫神は、「このことを朝廷で話すと、空には不思議な星が現れ、烏が榊の枝をくわえて御殿に入るでしょう」と答えたので、それでは、と鞍職が朝廷に上奏すると、まさしく姫神の告げた通りになり、早速御社殿の造営が命じられた。さて、戻ってきた鞍職が姫神に「それではどのような場所がよろしいでしょうか」と伺いをたてると、「私が高天原からつれてきた神烏が案内しますから、それに従ってください」との事だったので、鞍職は舟を作り、所々で禊ぎをしながら島の浦々を巡った。やがて養父崎の沖に来たときに、御山の松陰から神烏が飛来し、粢団子を咥えて舟を先導し始め、脇浦まで来たあたりで姿が見えなくなった。そこで、この場所に御殿を建てることになったという。

●康頼灯篭と卒塔婆石（やすよりとうろうとそとばいし）

治承元（1177）年、鹿ヶ谷で平家滅亡を企てた罪により鬼界ヶ島に流された平康頼は、都に住む老母をしのぶ歌を千本の卒塔婆に書いて流したところ、その内の１本が厳島神社に流れ着き、諸国行脚の僧によって都に伝えられ、ほどなく康頼は帰京を許された。

厳島神社境内にあるこの灯篭は康頼がお礼のために奉納したもので、数ある灯篭の中で最も古いものとされており、この側には卒塔婆が流れ着いたといわれる卒塔婆石がある。

康頼灯篭

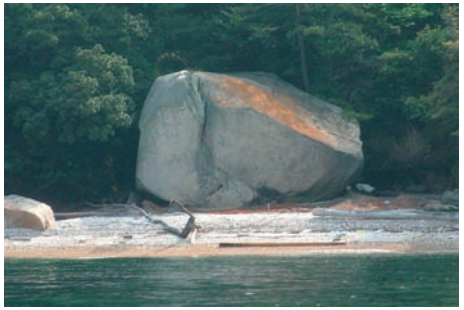
卒塔婆石

●曽我灯篭（そがとうろう）

建久4（1193）年 源 頼朝が行った富士の裾野の巻狩りの際に、父の仇を討った曽我兄弟の仇打ちは、赤穂浪士の討ち入りと伊賀越えの仇討ちに並ぶ、日本三大仇討ちの一つである。兄十郎は討死、弟五郎は処刑され、この灯篭は彼らの菩提を弔うために、手越の少将と恋人・大磯の虎（白拍子）が寄進したと伝えられている。

●内侍岩（ないしいわ）

下室浜から山道に沿って南側の尾根をこえたところに内侍岩と呼ばれる岩がある。平安の昔、徳大寺左大将実定卿がまだ大納言であった時、厳島で参籠生活を送っているうち、ふと目についたのが、


内侍岩

琵琶の名手で年のころ16，17、白衣に緋のハカマ姿の純情可憐な巫女―有子内侍であった。実定は美しい有子内侍を寵愛し、次の一首を詠んだ。

山の端にちぎりて出んよはの月
　　めぐり逢べき折をしらねど　　（実定卿）

やがて実定卿が都へ帰られる時、初めて知る恋情に有子内侍は実定卿の船を追いかけ、この岩の上にあがって扇を開いて別れを惜しんだ。その後有子内侍は実定卿を忘れかね、焼けつくような恋情を琵琶に托して都に行く船に飛び乗り、おりからの上弦の月を仰ぎつつ都へ向かった。しかし、船が都へついたところで実定卿は名だたる徳大寺大将の顕職、身は名もない厳島神社の巫女。およばぬ恋と知れば知るほど都に近づく船が恨めしく、

はかなしや浪の下にもいりぬべし
　　月の都の人や見るとて　　（有子内侍）

の和歌を残し独りさみしく海の中に入ったといわれる。

●小松内府平重盛御手植えの松
（こまつないふたいらのしげもりおてうえのまつ）

小松内府（平重盛）は平清盛の長男で、温厚な性格で仏教信仰に深い理解のあった人物として知られている。父清盛らとともに厳島神社に参詣し、治承元（1177）年10月には千僧供養を行っている。『芸州厳島図会』（1842年刊）には、同書に大願寺境内に重盛が植えたと伝えられる老松があると記され、明治初期に切られたといわれている。

小松内府（平重盛）御手植えの松

●後白河法皇御手植えの松（ごしらかわほうおうおてうえのまつ）

厳島神社の南側の御手洗川沿いにある。後白河法皇は平安時代末期、源平の騒乱期に活躍した法皇で、厳島神社を参詣された時に植えられた松といわれている。明治初期に切り倒された。

後白河法皇御手植えの松

地名と伝説

●西行戻（さいぎょうもどし）

長浜の上の山、行者堂（角仏堂）の辺りをいう。西行法師がこの山で老婆にあい、道を尋ねたが返事がなかったので、「うつせみのもぬけのからにことえば、山路をさへもおしえざりけり」と歌ったところ、これをきいた老婆は、「もぬけのからなれば、何も教えることはありません」と答えた。優れた歌人であった西行は返す言葉がなく、ここで引き返したと伝えられている。

●蓬莱岩（ほうらいいわ）

宮島の北端の聖崎から北へ20mの海中にある岩で、岩上には松が生え景観がよい。このあたりは春先に蜃気楼が見られるのでこの岩の名が出来たといわれる。

●遊女石畳・石柱

弥山登山道15丁付近にあり島の遊女が寄進した石畳道で、その標石がわずかに残っている。この辺りは陰湿な所で樅や栂が密生し、通行に困難を感ずるほどであったため寄進したといわれている。

●太夫戻し

弥山登山道の14丁手前あたりの路傍に「太夫戻し」という岩がある。福島正則が禁忌を犯して登山したところ、ここからはどうしても進むことができず下山したといわれている。

●疥癬岩（かいせんいわ）

弥山山頂付近、大日堂のすぐ上にあり、人が一人通れるくらいの狭い道の側に覆いかぶさるような形の大きな岩がある。

不心得な人がこの岩の側を通ると疥癬（疥癬虫によって伝染する皮膚病で、ひどいかゆさをともなう）になるといわれる。また、信心深く疥癬に悩んでいる人はこの岩に触ると、疥癬が岩に移り治るともいわれている。

●駒が林（こまがばやし）

駒が林は標高509mで、宮島では弥山に次ぐ高い山である。仁王門跡から尾根伝いに西に進むと大元浦に下る道があり、途中から右手に登るとすぐに頂上となる。

この頂上は花崗岩の岩盤で、西側の斜面は断崖・絶壁になっていて、この

駒が林

絶壁に生えている樹木や苔を遠方から眺めると、あたかも絵馬のように見えるので「絵馬ケ嶽」ともいわれている。

厳島合戦では、ここで陶方の武将弘中隆包父子が討ち死にした所といわれている。

●岩屋大師（いわやたいし）

大磐石の下に畳20余を敷き得る空洞がある。弘法大師の求聞持修法の跡と伝えられ、その奥に「弘法大師」が祀られている。

特徴のある石造物

●上卿雁木（しょうけいがんぎ）

石大鳥居付近の海岸にある雁木（石階段）で、明治維新前まで厳島神社で最も重要な祭事御鎮座祭に際し、安芸国府中（現府中町）から勅使代行役をつとめる上卿が来島する時にここから上陸していた。

上卿雁木

●二位殿灯篭（にいどのとうろう）

寿永4（1185）年、壇の浦の戦いで、安徳天皇を抱いて海に身を投じた二位の尼（平清盛の妻）のなきがらが、宮島の砂浜に流れ着いたといわれている。この石灯篭には、幕末に宮島の神泉寺で安徳天皇と二位尼を供養したことが記されている。（神泉寺は明治初期に廃寺となっている）

このあたりの浜辺は、「有の浦」と呼ばれ、江

二位殿灯篭

戸時代にはこの沖に見える多数の船が「厳島八景　有浦客船」としてその景色が歌に詠まれ、絵画の題材にもなっていた。

●石大鳥居（いしのおおとりい）

厳島神社参道にある高さ約9.7mの御影石（みかげいし）の大鳥居は、明治10（1877）年に海の大鳥居にちなんで日本一大きい鳥居を造ろうと発願され、できあがったのは明治38（1905）年であった。石材は山口県大島郡周防大島町椋野（むくの）の田尻（たじり）のものである。

石大鳥居

●ブランデンの歌碑

エドモンド・ブランデン（Edmund Blunden）1896-1974

英国の詩人・文学者。大正13（1924）年東京帝国大学に招かれて英文学を講じた。第2次世界大戦後の1947～1950年にかけて再来日している。広島を訪ね、昭和34（1959）年宮島で次の詩を詠んだ。この詩を刻んだ石碑は平松公園にある。

MIYAJIMA

If some kind god would give me here a house
Among the pinewoods on the mountain side,
Where I might often see
The arching torii lift

Above the tides red on the silver flood
And ferrying the calm strait the dragon ship
If only some Kind got
Would give me shelter here?
　　Edmund Blunden

ブランデンの詩碑

心やさしい神が　ここ　山腹の松林の間に　家を与えてくれたら
なんとうれしいことか　ここから私はよくながめるだろう
アーチ形の鳥居が　うしおの上に　しろがねの波の上に赤く浮き上がるのを
また龍頭の船が静かな海峡を渡るのを一
心やさしい神が　もし　ここに安息所を与えてくれたなら…　　（福田陸太郎訳）

（エドモンド・ブランデンは広島を訪れた際「HIROSHIMA」という詩を詠んでいる。その詩碑は広島市立中央図書館前にある。）

●弥山登山道改修碑（みせんとざんどうかいしゅうひ）

大聖院の仁王門の手前には、伊藤博文（いとうひろぶみ）の名を刻む弥山登山道改修の石碑がある。明治39（1906）年に大聖院から弥山に登る道が改修されたことを記念するものである。この工事は伊藤博文らの尽力によって行われ、題は「藤公修磴碑」と山県有朋（やまがたありとも）が記し、文章は末松謙澄が作っている。登山道にある一丁・二丁…と刻した町石は、この改修工事で設けられた。

弥山登山道改修碑

●枕崎台風襲来碑（まくらざきたいふうしゅうらいひ）

昭和20（1945）年9月17日、宮島を襲った枕崎台風は弥山頂上付近より山崩れを起こし、紅葉谷川に沿って大規模な土石流（どせきりゅう）を引き起こし、紅葉谷や厳島神

枕崎台風襲来碑

碑に埋め込まれた銘版

社社殿（西廻廊・天神社・長橋など）に大きな被害をだした。この災害の原因は戦争中の樹木の伐採に伴うものと考えられている。

宮島の戦後はこの災害復旧から始まったといえる。二度とこのような災害が起こらないように、また山を愛する願いを込め、そのとき流れ出た大岩の一つを川沿いに置くことになった。

「潮の香の　みたらしふくみ　初詣」の句と設置の由来を記した銘版がつけられている。

なお、この枕崎台風の襲来は広島県内にも大きな被害をもたらし、その顛末は、柳田邦男『空白の天気図』に記されている。

●毛利元就上陸碑
（もうりもとなりじょうりくひ）

包ヶ浦自然公園の入り口に立っている。弘治元（1555）年9月晦日夜、毛利元就は折からの暴風雨のなか、対岸の地御前からひそかに船を出し厳島に向かった。元就率いる本隊は、闇夜にまぎれて包ヶ浦に上陸した。

この石碑は昭和16（1941）年3月、広島陸軍兵器補給廠長によって建てられた。

毛利元就上陸碑

●陶晴賢敗死碑（すえはるかたはいしひ）

この石碑は高安ケ原にある。陶晴賢が厳島合戦に敗れ自害した場所には諸説あるが、現在「陶晴賢敗死碑」があるのは、瀬川秀雄博士が戦跡を調べ建立されたといわれている高安ケ原である。

陶晴賢敗死碑

●血佛（ちぼとけ）

血佛

大元公園内に建っている。厳島合戦では大軍を率いていた陶晴賢であったが、弘治元（1555）年10月1日未明、毛利軍の奇襲にあい、総崩れとなった。晴賢は乗る船もなくわずかの家来とともに、大元浦へと落ちていった。この石塔は墓ではなく、明暦4（1658）年に建てられた供養塔である。厳島合戦ののち永らく陶方の敗死者の血が流れたと伝えられていることから「血佛」と呼ばれている。陶晴賢の墓は廿日市市の洞雲寺にある。

●「厳島神社」世界遺産登録記念碑
（「いつくしまじんじゃ」せかいいさんとうろくきねんひ）

宮島桟橋前の広場に建っている。平成8（1996）年12月6日、厳島神社が原爆ドームとともに世界遺産として登録が決定された。それを記念して平成12（2000）年11月1日にできた石碑で、彫刻家児玉康兵の手によるものである。陰陽思想と古代の宇宙観をテーマに円形と方形を基本にデザインされている。中央部の穴から厳島神社の大鳥居を望むことができる。

「厳島神社」世界遺産登録記念碑

記念碑の穴から望む大鳥居

●日本三景碑（にほんさんけいひ）

日本三景碑

平成11（1999）年に建てられた、宮島桟橋前広場に立つ石碑。碑文は儒学者林春斎（はやししゅんさい）によって寛永（かんえい）20（1643）年に書かれた『日本国事跡考』より抜粋されている。

日本三景は林春斎が『日本国事跡考』に「丹後天橋立、陸奥松島、安芸宮島、三処を奇観と為す」と書いたのが始まりといわれている。

●特別史蹟及び特別名勝石碑

大正12（1923）年、史蹟名勝天然記念物保存法により、厳島全島が史蹟及び名勝に指定された。昭和6（1931）年に浜の町の石碑が建てられた。昭和27（1952）年文化財保護法により全島が特別史跡及び特別名勝となった。

特別史蹟及び特別名勝石碑(浜の町)

コラム

7月21日は「日本三景の日」

誰もが一度は訪れてみたいあこがれの地 ―日本三景―

日本三景（宮島・天橋立・松島）を著作『日本国事跡考』の中で紹介した林春斎（1618-1680）の誕生日である7月21日が平成18（2006）年に「日本三景の日」として制定されました。

施　設

●広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所（通称 広大植物園）

実験所ホームページ　http://home.hiroshima-u.ac.jp/miyajima/

廿日市市宮島町三ツ丸子山1 156-2外

Tel:0829-44-2025

宮島の人為的攪乱（かくらん）の少ない自然を生かした植物園である。昭和39（1964）年に発足し、大元公園から室浜まで約10haの敷地面積をもつ。宮島の貴重な自然を活用して植物学に関する教育・研究活動を行なうとともに、宮島の自然の保全・保護に関する教育・研究活動を行なうことを設置目的としている。現在、宮島を中心とした瀬戸内地域の植物や植生、その保全や保護、さらに植物観察会（ヒコビア会との共催）など、植物学全般に関する啓発活動などを行なっている。宮島港から約6km、大元公園から約4kmの場所にある。園内に300種以上の植物が生育し、四季折々さまざまな植物を観察することができる。

広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所

標本保管庫

●宮島水族館（愛称：みやじマリン）

宮島水族館ホームページ　http://www.miyajima-aqua.jp/outline/index.html

廿日市市宮島町10-3

Tel：0829-44-2010

シンボルマークのスナメリのモニュメントがある
宮島水族館正面玄関

戦後復興に余念のない、昭和34（1959）年に宮島水族館ができあがった。海や川に住む生き物たちを楽しみながら体験し、学習できる施設として多くの人々、とりわけ未来を担う子供たちに大変親しまれている。瀬戸内海は潮の満ち干が大きく、潮が干くと沖まで広い干潟（ひがた）になる。宮島水族館は背後に山、そしてそこから流れてくる川の河口域にあり、また瀬戸内海の豊かな干潟（ひがた）に面しているという、全国的にみても大変貴重な環境に立地している水族館でもある。

宮島が位置する瀬戸内海は、その海水から塩を作り、そこに住む魚介類は食糧となるなど、古来人間にとっては数限りない恩恵を与えてくれてきた海である。

こうした瀬戸内海と、そこに流れ込む中国山地を源とする河川に生息する生物はもちろんのこと、ピラニア・テッポウウオ・デンキウナギなど世界の代表的な魚類、アシカ・トドなど水生動物350種13,000点が展示されている。一生懸命に生きているたくさんの生き物をしっかりと観察してみよう。

タイ・エビ・タコなどは日頃私たちがよく食べている生き物である。また、天然記念物になっているカブトガニ、瀬戸内海に生息しているスナメリなどは、環境の変化によりその数が少なくなり、種の絶滅が危惧（きぐ）されている希少動物である。

こうした水生生物と触れ合うことによって、あらためて私たちも動物の一種としての人類であることを自覚し、生き物の素晴らしさを知ることができる水族館なのである

●宮島歴史民俗資料館

廿日市市宮島町57

Tel：0829-44-2019

白壁の土蔵風の建物と宮島では珍しい間口の広い格子戸（こうしど）を巡らした二階建ての商家風の木造の建物。昭和49（1974）年4月に開館された。敷地面積約500坪。その北側と西側の外観は、かつての宮島の町並の面影を残す出格子（でごうし）のある風景を再現している。

宮島で大きな商家であった旧江上家の主屋と土蔵を展示施設に利用した資料館は、宮島の庶民の暮しぶりをうかがうことができる宝庫でもある。入り口正面の大きな古備前の甕（かめ）や土蔵展示室内の数多くの甕は、島の生活の中でいかに水を確保することが大切であったのかを現代の私たちに思い起こさせてくれるものである。

また、平地が少なく山が海まで迫る地形の中で、鋸（のこぎり）や大鉋（おおかんな）、滑車（かっしゃ）や籠には山と共に暮してきたかつての人々の汗まで感じられるようである。

模型による年中行事の展示は、神社と寺が渾然（こんぜん）とした宮島の多様さという特徴を示している。杓子をはじめとする宮島物産としての木工品も見逃せない。盆・菓子器・茶器・木匙（きさじ）・宮島彫りの製作工程・工具・製品の展示がその工程を明らかにしている。また、電動ロクロが導入される以前に使われた足踏みロクロをみることができる。手の温もりが感じられる品々の展示から、かつての暮しぶりの

展示館A
石畳のある土蔵をそのまま保存している。甕・壺・釜・桶・臼・篭や山子鋸・大鉋・滑車など 200 点が展示されている。ここには弥山霊火堂からおろした弘法大師ゆかりの消えずの火の大釜がある。

展示館C
僧誓真が創始したといわれる飯杓子、ロクロによる盆・菓子器・茶器や木匙、宮島彫りなどいずれも江戸時代後期に興されたもので、それぞれの製作工程・工具・製品、問屋の看板などの資料約 1000 点を展示している。

展示館D階上
島めぐり行事を描いた七浦屏風、宮島芝居や富くじに関する資料、名所図会など信仰と観光の町宮島を理解する上で欠くことのできない資料など、考古資料約 400 点を展示している。

きめ細やかさが伝わってくるようである。

二階は宮島を描いた屏風や木版画、名所案内記、歌舞伎の口上番付などがある。名所・観光地として宮島を紹介した諸記録類が展示されている。階段を下りるとそこは宮島の古い民家の内部を復元した一角となっている。間口が狭く奥行が深いのが特徴である。入り口の「鹿戸」は外から押しても開かないようになっており、これによって鹿の進入を防いだのである。宮島に住む人の生活の工夫がうかがわれるところである。

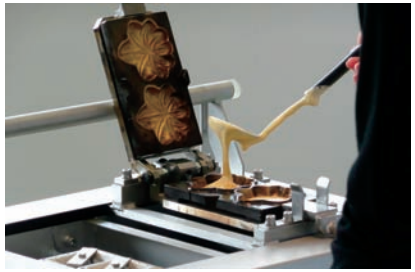
●宮島伝統産業会館

廿日市市宮島町1165-9
Tel：0829-44-1758

宮島伝統産業会館は、昭和55（1980）年に開館し、宮島伝統工芸のしゃもじ、宮島彫り、ロクロ細工、宮島焼きなどが展示されている。

平成20（2008）年４月19日にリニューアルオープンし、もみじ饅頭の手焼きや、宮島杓子の焼き印押しが楽しめる体験型施設へ改装された。「みやじまん工房」の愛称で、伝統工芸の一端に触れることのできる場となっている。

宮島伝統産業会館



もみじ饅頭の手焼き体験

●宮島ロープウェー

宮島ロープウェーホームページ　http://miyajima-ropeway.info/
廿日市市宮島町紅葉谷公園内
Tel：0829-44-0316

紅葉谷駅から中間駅榧谷駅を経て、終着の獅子岩駅へ向かう宮島ロープウェーは循環式と交走式の２種類の方式のロープウェーを連絡するという、全国的にも珍しい形式で運行されている。循環式ロープウェーとは自動循環式ロープウエーのことで、少人数乗りのゴンドラを所定の間隔で順次出発させるもので、輸送力を一定に保ちながら長い距離を輸送するのに適している。交走式ロープウェーとは２台の客車が山頂と山麓を交互に往復するシステムで、大きなゴンドラを用いて一度に多くの乗客を運ぶことができるというもの。このロープウェーからは厳島の谷や林相、そして広島湾に浮かぶ島々がダイナミックに一望できる。

ロープウェーからの眺め

ロープウェー

●弥山展望台

瀬戸内海に点在する島々が一望できる。対岸の廿日市市、広島市、そして牡蠣の養殖筏まで見ることができる。360度の大パノラマが拡がっており感動的である。美しい瀬戸内海の景色が体感できる場所である。

弥山展望台

弥山山頂

●包ケ浦自然公園（管理センター）

廿日市市宮島町包ケ浦

Tel：0829-44-2903

テニス、ケビン、キャンプ、海水浴など、美しい自然のなかに楽しさと遊びがあふれている。総面積15.6haという雄大な広さと、充実したレジャー設備を誇るのが包ヶ浦自然公園である。700mに延びる海岸線は美しいカーブを描き、波おだやかな海は家族向きの海水浴場として人気を呼んでいる。主な施設は、ケビン（貸別荘）、テニスコート、運動広場、キャンプ場、バーベキューハウスなど。自然に親しめる公園として人気を呼んでいる。

包ケ浦自然公園

コラム　広島県内の厳島神社　i

	名　称	所　在　地	例祭日
1	厳島神社	廿日市市宮島町 1-1	6月17日
2	厳島神社	広島市中区橋本町 8-1	旧暦6月17日
3	厳島神社	竹原市田万里町 1879	10月13日
4	厳島神社	竹原市東野町青田 1766	旧暦6月17日
5	厳島神社	大竹市木野 1 丁目 3	10月第2日曜日
6	厳島神社	東広島市西条町寺家 7505	10月10日
7	厳島神社	安芸郡熊野町字郷原地 7990	3月21日
8	厳島神社	安芸郡熊野町字赤野 8048	4月3日
9	森之奥厳島神社	呉市下蒲刈町三之瀬 117	10月12日
10	厳島神社	山県郡安芸太田町加計穴 928	11月3日
11	厳島神社	山県郡安芸太田町上筒賀 782	12月5日
12	厳島神社	山県郡北広島町戸谷字森河内甲6013	10月10日
13	厳島神社	安芸高田市吉田町長屋 385	10月9日
14	佐々井厳島神社	安芸高田市八千代町佐々井字小丸 411	10月最終日曜日
15	厳島神社	東広島市黒瀬町楢原 1158	10月10日
16	厳島神社	東広島市豊栄町能良 1619	11月23日
17	下福田厳島神社	三原市大和町大草 875	11月2日
18	津具厳島神社	三原市大和町大草 4738	11月3日
19	河頭厳島神社	三原市大和町大草 6798	11月2日
20	下中厳島神社	三原市大和町大草 8782	10月5日
21	厳島神社	三原市大和町和木字横郷 1989	9月1日
22	厳島神社	東広島市河内町河戸字亀之井 2174	6月17日
23	厳島神社	東広島市河内町入野 238	7月15日
24	厳島神社	三原市本郷町本郷字塔之岡 957	旧暦7月17日
25	厳島神社	三原市本郷町南方字門田 1706	旧暦7月17日
26	厳島神社	豊田郡大崎上島町大串 751-1	旧暦6月17日
27	厳島神社	豊田郡大崎上島町木江字正畠 4966-1	旧暦6月17日
28	厳島神社	尾道市瀬戸田町高根字原 494	旧暦6月17日
29	厳島神社	尾道市瀬戸田町鹿田原字麓 452	旧暦6月17日
30	厳島神社	尾道市瀬戸田町宮原 809	旧暦6月17日
31	厳島神社	三原市木原町 2333	10月第3日曜日
32	厳島神社	三原市沼田東町七宝開之内 27	6月17日
33	宮島神社	三原市宮沖 119-1	旧暦6月16日

広島県内の厳島神社 ii

	名　　称	所　　在　　地	例祭日
34	厳島神社	尾道市浦崎町 4159-1	10月第1土･日曜日
35	厳島神社	尾道市浦崎町 4373	旧暦6月16･17日
36	厳島神社	尾道市久保 2 丁目 15	7月25日前後の日曜日
37	厳島神社	尾道市高須町 607	旧暦6月17日
38	厳島神社	尾道市高須町 656	7月第4日曜日
39	厳島神社	尾道市西久保町 6	10月25日
40	厳島神社	尾道市向東町歌二ノ岡 12891	旧暦6月17日
41	厳島神社	尾道市向東町字本浦 13076-1	10月17日
42	厳島明神社	尾道市百島町丸石 3439	旧暦8月18日
43	厳島神社	尾道市因島大浜町 1754	10月17日に近い日曜日
44	厳島神社	尾道市因島鏡浦町 596	10月20日
45	厳島神社	尾道市因島重井町6329	旧暦6月17日前後の土曜日
46	厳島神社	尾道市因島中庄町 54	旧暦6月17日
47	厳島神社	尾道市因島原町 1153	旧暦6月17日
48	厳島神社	福山市赤坂町早戸土居 435	旧暦9月17日
49	厳島神社	福山市駅家町下山守二本木 467	10月第1日曜日
50	厳島神社	福山市駅家町中島 474	12月8日
51	厳島神社	福山市駅家町法成寺字蓮当寺 119	8月下旬
52	厳島神社	福山市駅家町万能倉 1210	9月第1日曜日
53	厳島神社	福山市春日町吉田 634	10月第1日曜日
54	厳島神社	福山市金江町金見 2720	10月中旬
55	厳島神社	福山市神村町 143	4月3日
56	厳島神社	福山市神村町甲 696-1	旧暦9月16日
57	厳島神社	福山市神村町 3681	旧暦9月6日
58	厳島神社	福山市郷分町大左古 1103	10月第1日曜日
59	厳島神社	福山市佐波町 588	10月第3日曜日
60	厳島神社	福山市瀬戸町長和 3414	旧暦4月16日
61	厳島神社	福山市大門町 4 丁目 156	10月10日
62	厳島神社	福山市津之郷町加屋字タレクチ 187	10月9日
63	厳島神社	福山市津之郷町津之郷 510	旧暦6月17日
64	厳島神社	福山市津之郷町津之郷 635	10月5日
65	厳島神社	福山市坪生町 3087	旧暦10月15日
66	厳島神社	福山市藤江町字阪之東 370	―

広島県内の厳島神社 iii

	名　　称	所　　在　　地	例祭日
67	厳島神社	府中市土生町字平 1107	7月15日
68	厳島神社	府中市広谷町 993	6月17日
69	厳島神社	三次市十日市町 2535-3	旧暦7月17日
70	厳島神社	三次市三若町 2616-8	11月3日
71	厳島神社	庄原市殿垣内町 199	10月6日
72	厳島神社	庄原市水越町 334	10月第3日曜日
73	厳島神社	尾道市御調町大原字石見 593	10月9日
74	厳島神社	尾道市御調町丸河南 349-2	旧暦6月17日
75	厳島神社	尾道市御調町丸門田 1036	旧暦6月17日
76	厳島神社	三原市久井町吉田字宮沖 1135	11月12日
77	厳島神社	尾道市向島町岩子島 1944	10月18日
78	厳島神社	尾道市向島町干汐2358	7月27日
79	厳島神社	尾道市向島町田尻古神宮寺 5085-2	7月16日
80	厳島神社	尾道市向島町明神島 5525	10月17日
81	厳島神社	世羅郡世羅町甲山東上原 1027	11月上旬
82	厳島神社	世羅郡世羅町賀茂東 3720	11月3日
83	厳島神社	福山市沼隈町常石 2631	7月第4日曜日
84	厳島神社	福山市新市町金丸 99	9月末の日曜日
85	厳島神社	福山市新市町常字星子 1063	7月17日
86	厳島神社	福山市新市町藤尾字京ノ上平ノ上 1191-3	6月17日
87	厳島神社	福山市新市町宮内 419	8月15日
88	厳島神社	庄原市総領町亀谷字土居 1226	11月17日
89	厳島神社	三次市吉舎町知和 123	11月3日
90	厳島神社	三次市吉舎町三玉 849	10月10日
91	厳島神社	三次市三和町敷名 1663	11月2日
92	厳島神社	庄原市西城町西城 418	7月下旬

＊この表は神社名（厳島・宮島）をまとめたもので、市杵島姫命及び田心姫命、湍津姫命を祀っている。（参考：『廣島縣神社誌』広島県神社庁）